

「資 料」

第9回 IWA (国際水協会) 世界会議・展示会 (リスボン) 報告

日本水道協会研修国際部国際課

1. IWA 世界会議について

1999 (平成11) 年に、水道事業者から構成された IWSA (国際水協会) と学術分野から構成された IAWQ (国際水環境協会) が合併して、IWA (国際水協会) が設立された。それに伴い、それまで両協会が開催していた世界会議が1つに統合された。

IWA 世界会議は IWA の最も重要な会議に位置付けられており、IWA-ASPIRE (アジア・太平洋地域) 会議と交互に隔年で開催されている。今年で第9回目となる本会議は、2008 (平成20) 年ウィーン会議以来となるヨーロッパ圏のポルトガル・リスボンで開催された。

2. 第9回 IWA 世界会議・展示会の概要

期 間 2014 (平成26) 年 9 月 21 日 (日)～26 日 (金)

開催地 ポルトガル・リスボン

会 場 リスボン・コンgresセンター

テーマ Shaping our water future (水の未来の形成)

(1) ポルトガル・リスボンについて

リスボンは人口約54.7万人、面積約84.8km²の都市で、1255年よりポルトガルの首都となり、15～17世紀にかけての大航海時代に繁栄した。またこの頃、海外交易によって得た富で、ジェロニモス修道院などの大建築物が築かれた。リスボンはリスボン半島の南東岸でテージョ川上流約10kmに位置しており、日本の東北地方と同じ緯度にありながら、地中海性気候に属しており比較的温暖な気候である。リスボンにおける水道事業は、ポルトガルで最も規模が大きく歴史のある Empresa Portuguesa de Águas Livres (EPAL) が担っており、リスボン市内の約35万戸に対する末端給水と周辺34自治体の250万人に対する用水供給事業を行っている。EPAL は本会議の主要スポンサーであった。

本会議がポルトガルで開催された背景には、IWA の会員獲得戦略があり、初のポルトガル語

圏での開催を足がかりに、今後、アフリカや南米などポルトガル語圏に向けた PR を実施していくことが考えられる。

また、本会議の特色として、規制機関の存在が挙げられる。ポルトガルには Entidade Reguladora dos Serviços de Águas e Resíduos (ERSAR) という公共上下水道の経済規制、サービスの質や水質等を規制する機関があり、展示会場のブースでもその存在を強くアピールしていた。

(2) 会議について

本会議には、世界108カ国から一般参加者5,500



ポルトガル地図



会場となったリスボン・コンgresセンター



参加受付

名、会議登録者2,750名、出展参加企業210社が参加し、過去最高の参加者数を記録した。また、日本からは参加国中最多の120名が参加し、論文発表や展示等により日本の水道技術を世界に向けて発表するとともに、各国関係者と交流を深めた。

会議は9月21日(日)に行われた種々のプレ・コンgres・イベントと開会式を皮切りに、翌22日(月)から論文の口頭発表及びポスター発表を中心とした構成で、5日間にわたって開催された(主要な日程は下表参照)。口頭論文発表は5つのテーマで全350編が発表され、日本からは24編の発表があった。また、ポスター論文は全600編の発表があり、日本からは50編の発表が行われた。

IWA が強調していた本会議の特徴として、水道水の良さをアピールする取組が挙げられる。参加者に配布されたコンgresバッグには、プラスチック製の繰り返し利用可能なボトルが入っており、会場のいたるところに水道水サーバーが設置され、参加者はボトル水ではない水道水を利用するようになっていた。

(3) 本協会主催の世界会議参加ツアー

本協会では、IWA 世界会議、IWA-ASPIRE 会議開催時に、会議参加ツアーを企画・実施した。リスボン会議ツアーには、協会職員含め34名が参加した。

宿泊ホテルのロビーには専用のツアーデスクを、またホテル・会場間の移動には専用の送迎バスを用意し、9月22日(月)には情報交換会を開催した。



会場に設置された水道水サーバー

3. IWA 理事会

世界会議に先立って開催される IWA 理事会は、開会式前日の9月20日(土)の9時から12時30分まで、Hotel Marriott Lisbon にて開催された。日本からは東京大学大学院の古米教授、本協会の尾崎理事長、三竹シニア国際専門監が出席した。

理事会では、IWA による活動・財務等に関する報告の後、次期 IWA 副会長の選任等の議題があり、それぞれ以下のように決定された。また、IWA の今後の運営方針等を示した「IWA Strategic Plan 2014-2018」の内容の審議には長時間が費やされた。

<理事会での主な決定事項>

> IWA 次期副会長の決定

シニア副会長 Tom Molenkopf 氏 (オーストラリア)

副会長 Diane D'Arras 氏 (フランス)

主要日程

日 程	時 間	プログラム
9月21日 (日)	08:30-14:30	若手水専門家フォーラム (プレ・コンgres・イベント)
	09:00-15:00	アセットマネジメントフォーラム (プレ・コンgres・イベント)
	15:30-17:00	開会式
	18:00-19:00	ウェルカムレセプション
9月22日 (月)	09:00-09:45	基調講演
	09:45-12:00	口頭論文発表・ワークショップ
	13:30-17:00	口頭論文発表・ワークショップ
	17:15-18:00	基調講演
	(10:30-17:00)	ポスター発表
	(09:00-18:00)	展示会開催
9月23日 (火)	09:00-09:45	基調講演
	09:45-12:00	口頭論文発表・ワークショップ
	13:30-17:00	口頭論文発表・ワークショップ
	17:15-18:00	基調講演
	(10:30-17:00)	ポスター発表
	(09:00-18:00)	展示会開催
9月24日 (水)	09:00-09:45	基調講演
	09:45-12:00	口頭論文発表・ワークショップ
	13:30-17:00	口頭論文発表・ワークショップ
	17:15-18:00	基調講演
	(10:30-17:00)	ポスター発表
	(09:00-18:00)	展示会開催
9月25日 (木)	09:00-09:45	基調講演
	09:45-12:00	口頭論文発表・ワークショップ
	13:30-15:00	口頭論文発表・ワークショップ
	15:30-17:00	閉会式・閉会講演
	19:00-23:00	ガラ・ディナー
	(10:30-12:00)	ポスター発表
	(09:00-18:00)	展示会開催
9月26日 (金)	09:00-17:00	技術視察

- 2020年 IWA 世界会議開催地域の決定
ヨーロッパ地域に決定
- IWA 新役員 (Board of Directors) の決定
日本からは東京大学大学院 古米教授が再任

4. プレ・コンgres・イベント

本会議では、開会に先立ちいくつかのプレ・イベントが開催された。そのうち、本協会職員が出席したイベントの概要を紹介する。

- (1) 水分野におけるインフラストラクチャー・アセット・マネジメント・フォーラム
IWA の戦略的アセット・マネジメント・スベ

シャリスト・グループの主催によるフォーラムが、9月21日 (日) 9時から15時まで、ルーム0.06において開催された。参加者は100名前後で、うち日本人は8名ほどであった。

フォーラムは午前と午後の2部構成で、午前中はアセット・マネジメント関連の5つのトピックに沿った取組発表及びディスカッション、午後には、本年1月に発行されたアセット・マネジメントの国際規格、ISO 55000シリーズをテーマとした発表及びディスカッションが行われた。午前中のセッションでは、フォーラムに参加していた横浜市水道局、大阪市水道局からも参考事例の紹介が行われた。



フォーラムの様相



プレゼンターらによるセッション取りまとめ

アセット・マネジメント・フォーラムのプログラム

時 間	プログラム
09:00-12:30	<p>■パート1-インフラストラクチャー・アセット・マネジメントの最新トピック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トピック1: 戦略的長期ビジョンと計画 ・トピック2: 意思決定プロセスの統合 ・トピック3: 新インフラ建設 vs. 更新への投資 コーヒー・ブレイク ・トピック4: 情報管理-適切な意思決定のカギ ・トピック5: インフラストラクチャーの維持管理における資本投資
12:30-13:30	ランチ
13:30-15:00	<p>■パート2- ISO 55000アセット・マネジメント規格-水分野における役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規格の概要 ・水ビジネスの視点から見た規格 ・規制機関から見た規格 ・認証機関から見た規格 ・財務監査から見た規格 ・WSAA (オーストラリア水サービス協会) から見た規格

(2) ヤング・ウォーター・プロフェッショナル・フォーラム

IWA では若手専門家を対象に、ヤング・ウォーター・プロフェッショナル (通称 YWP) によるプログラムを推進しており、若手水専門家の積極的な参画推進と活発なネットワーク構築、各国の情報共有に努めている。

YWP フォーラムは、9月21日 (日) 8時30分より14時30分まで、コンGRESS・センター内のオーデトリウム2で開催された。参加者は約50名で、うち日本人参加者は4名であった。また参

加者にはヨーロッパ圏の学生や事業体の若手職員が目立った。プログラムは下表の通りである。

グループ・ディスカッションのテーマは、国連による Sustainable Development Goals (持続可能な戦略目標) において、目標年次である2030年までに我々世代がどのような取組をしていくのかということであった。本協会の参加したグループ・ディスカッションの中で、日本における団塊の世代退職における技術の継承問題についての議論が行われ、他国でも同様の問題が存在していることから、課題解決に向けたアイデアが議論された。

ヤング・ウォーター・プロフェッショナル・フォーラムのプログラム

時 間	プログラム
08:30-09:00	オープニング (IWA 会長 Daigger 氏、次期会長 Kroiss 氏)
09:00-10:30	パネル・ディスカッション、オープン・ディスカッション (テーマ: 若手職員のキャリアデザインについて)
10:45-11:15	ネットワーキングセッション (参加者同士で自己紹介と意見交換)
11:15-12:00	YWP 議長と2012YWP アワード受賞者によるプレゼンテーション (テーマ: ネットワークが自らのキャリアにもたらしたもの)
13:00-14:20	グループ・ディスカッション (テーマ: YWP はこれからの水問題をどのように評価していくか)
14:20-14:30	クロージング



YWP フォーラムの様相

5. 開会式及び基調講演

開会式は9月21日(日)の15時30分より、コンベンション・センター2階のオーデトリウム1で行われた。開会前には少年少女によるドラム演奏が披露され、はじめにポルトガルのエネルギー・都市計画・環境大臣 Jorge Moreira 氏と中国人口資源環境副大臣の Qiu Boaxing 氏の挨拶があった。その後、IWA 会長 Glen Daigger 氏、会議議長 Jaime Melo Baptista 氏、リスボン副市長の Fernando Medina 氏によるパネル・ディスカッション形式の基調講演が行われ、続いて水分野において優れた取組をおこなった個人と団体に賞が贈呈された。

受賞者と受賞項目は以下の通り。

- Global Water Award Qui Baoxing 氏
(CPPCC 国内委員会副議長、中国)
- Young Water Professionals Award

Inga Jacobs 氏

(Water Corporation of Western Australia CEO、オーストラリア)

- Women in Water Award Sue Murphy 氏
(Water Research Commission 事業部長、南アフリカ)

- Professional Development Award

Maynilad Water Services

最後に、IWA 専務理事の Ger Bergkamp 氏が挨拶し、「2030年までに都市の水道システムの課題に取り組むには、様々な産業が手を取り合うことが必要である。」とのことから、会場にいる参加者に対し互いに握手をするように促すという場面があった。また今回の世界会議が、「参加者が互いを奮起させ、インスピレーションとネットワーク構築のための素晴らしい機会となることを期待



開会式の模様



開会式後のレセプションの様様

- トラック 3：良好なガバナンス、持続可能な経営、ICT（情報通信技術）の効果的なプロセス
- トラック 4：水質、安全、人々の健康
- トラック 5：浄水処理、排水処理のプロセス

口頭発表の中でも注目度の高いアセット・マネジメントや広報に関するテーマの発表時には、大変多くの聴講者が会議場に殺到し、会議場からあふれている場面も見受けられた。

(2) ポスター論文発表

kongress・センター2階のポスターホール、パビリオン4とパビリオン5において、ポスター論文発表及びポスター展示が行われた。各パビリオンの角にディスプレイが設置されており、発表者はポスターデータを映写して1人3分の発表を行った。テーマは口頭論文発表と同様に5つに分かれており、全体で600編の発表、日本からは50編の発表があった。

している。」と述べ開会の挨拶を締めくくった。

開会式終了後には、オーデトリウム以外の空きスペースでレセプションが行われ、飲み物とカナッペが振る舞われたが、広さが十分でなかったため、写真のとおり身動きがとりづらいほど混雑した状況となり、参加者からは不評であった。

6. 口頭論文発表、ポスターセッション

(1) 口頭論文発表

9月22日(月)9時からの基調講演を皮切りに、口頭論文発表を中心としたプログラムが開始された。発表はそれぞれ5つのトラック(主要テーマ)から構成されており、トラックごとに部屋が割り当てられ、 kongress・センターの14の部屋を使用してテーマに沿った発表が行われた。トラックの構成は以下の通り。

- トラック 1：都市、事業体、産業界の優れた改変
- トラック 2：水資源に関する方針の再計画



口頭発表の様様



ポスター論文発表の様相



展示会場

7. 各国水協会・水道協会会議 (Professional Association Meeting)

本協会からは佐久間研修国際部長、松井研修国際部参加が出席した。

会議は自己紹介の後、司会者から IWA と各国水道協会との連携に関する提案がなされたが、様々な意見が出され、出席者全員としての具体的な方針のとりまとめには至らなかった。JWWA としての協会連携の取り組みとして、松井参加が10月の本協会の全国会議にアジアの水道協会等を招聘し、ミーティングやフォーラムを開催して情報共有化を図る旨説明した。

8. スペシャリスト・グループ会議

世界会議と並行して、IWA スペシャリスト・グループ (SG) の会議が開催された。これら会議では、各 SG の活動報告や今後の活動計画の審議が行われた。

リスボンで本協会職員が出席した会議について、その様子を紹介する。

て、その様子を紹介する。

(1) 経済統計スペシャリスト・グループ

9月23日(火) 15時30分より17時まで、ルーム 0.08にて開催された。本協会では渋谷調査部資料課長が本グループのメンバーとなっているが、リスボン会議には出席しなかったため、澤井国際課課長補佐が出席し、次回運営会議と併催するワークショップの開催案についてのプレゼンテーションを行った。提案は承認され、2015年3月18日(水) から20日(金)にかけて、日本水道協会にて、SG 運営会議と水道経営・料金設定をテーマとしたワークショップを開催することが決定した。



経済統計 SG 会議の様子

(2) SAM (戦略的アセット・マネジメント) スペシャリスト・グループ

9月24日(水) 15時30分より17時まで、ルーム 0.06にて開催された。

本会議では、2015年11月に横浜市で開催される「IWA 戦略的アセット・マネジメント会議 (LESAM 2015)」の準備状況等に関し、横浜市水道局国際



LESAM 2015開催に関するプレゼンテーション

事業課の浅岡係長によるプレゼンテーションが行われた。

9. 展示会

(1) 概要

展示会は9月22日(月)から25日(木)にかけて、コンgresセンター・エキシビジョンホールで行われた。展示総床面積は約10,000m²で全世界から210の水道事業者、民間企業、その他団体が出展した。今回の展示会は会場が二つに分かれており、入り口から真直ぐ進んだ正面にホール1、それをさらに進んだ先にホール2が配置された。ホール1はやや低めの天井で一体感のある印象を感じさせ、ホール2は高い天井で華やかな印象を抱かせるものであった。ホールが分断され会場への入り口が限られていることから、人目につきやすい部分とそうでない部分が明確に分かれており、会場の四隅に配置された展示団体にはPRしづらい会場であったと思われる。2016(平成28)年開催予定のIWA世界会議開催国であるオーストラリアのブースは、ホール1の隅に配置されたため比較的目立たず、次回開催を見据えたPR活動も実施していなかった。

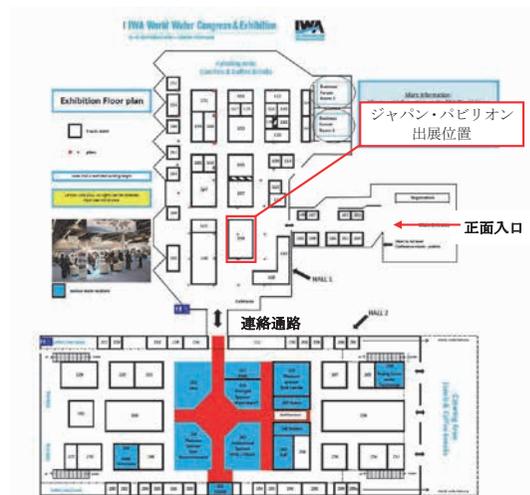
(2) ジャパン・パビリオン

日本チームは、展示会にて、54m²(6小間分)の展示スペースで「ジャパン・パビリオン (Japan Pavilion)」と称した共同出展ブースを展示会場の入り口付近(ブースNo.139)に出展した。本協会より国際展開に積極的に取り組んでいる事業者、団体、民間企業に呼びかけを行い、最終的に、

東京都水道局、東京都下水道局、横浜水ビジネス協議会、日本下水道協会、日本水道工業団体連合会、株式会社クボタ、水ing株式会社、大成機工株式会社、メタウォーター株式会社と本協会の10者での共同出展となった。

9月22日(月)10時に関係団体、関係者が集合し、盛大にパビリオン開会式を行った。

展示ブースには、ディスプレイと客席のあるPRコーナーを設け、出展者によるプレゼンテーションやDVDでの製品・事業紹介、ポスター展示やリーフレット配布を行った。また、東京で開催される2018年IWA世界会議についても、「チーム・ジャパン」としてPRパネルとリーフレットを作成し、人通りの多い通路側で展示、配布する



展示会場見取図



展示会の様子

ことで積極的な広報活動を実施した。展示時間をフル活用した発表と、展示会場の入口正面という優れた立地条件が幸いし、展示会の開催期間を通して各国の水道事業関係者が数多く訪れ、活発な意見交換と情報共有がなされた。



ジャパン・パビリオン開会式



出展者によるプレゼンテーション



JWWA コーナー

(3) ビジネス・フォーラム

展示期間中には、展示会場内に別途用意されたビジネス・フォーラムのブースにおいて、出展者による各種プレゼンテーションが行われた。出展申込者のうち希望した者に、ここでの発表枠が割り当てられる仕組みとなっており、出展者に与えられる特典の1つであった。

ジャパン・パビリオンからは、9月22日（月）には、株式会社クボタ、メタウォーター株式会社、23日（火）には東京都水道局、東京都下水道局、横浜水ビジネス協議会が発表を行い、各団体の取組や製品等について紹介した。



ビジネス・フォーラムでの発表

10. IWA 2014 Project Innovation Awards (PIA) 受賞式

PIA 受賞式は、9月24日（水）の19時より、リスボンの Estufa Fria ガーデンで行われた。受賞式では、上下水道の各分野で、その年に優れた実績を残した組織やプロジェクトが表彰された。日本からは株式会社ナガオカが、小規模プロジェクト



PIA 受賞式の様子

部門賞及び全体での最優秀賞を受賞した。

11. 閉会式及びガラ・ディナー

(1) 閉会式

閉会式は、9月25日(木)の15時30分より、開会式と同様のコンベンション・センター2階のオーデトリウム1で行われた。まず、YWPによるパネル・ディスカッションが行われ、本会議でのネットワーキングの重要性について総括を行った。日本からは、山村中央大学助教がYWP東アジア地域代表としてディスカッションに参加した。続いて、ポスター優秀発表者5名の表彰、IWAフェローによるパネル・ディスカッションが行われ、フェローの役割を紹介するとともに本年度のフェロー認定者が発表された。最後に、現会議議長 Jaime Melo Baptista 氏から次期ブリスベン会議の議長を務める Paul Greenfield 氏への引き継ぎ、元 IWA 会長 Glen Daigger 氏から現 IWA 会長 Helmut Kroiss 氏への引き継ぎが行われ、過去

最大規模の発表数、参加者数となった本会議は盛況のうちに幕を閉じた。

(2) ガラ・ディナー

ガラ・ディナーは、9月25日(木)の19時より、会議場から車で30分ほどのところにある Convento do Beato で開催された。ここは、15世紀に建てられた修道院を改修した施設で、現在は様々なイベントに使用されているということであった。会場内の回廊、食堂、図書室、テラスなどのスペースにそれぞれテーブルとイスが設置されており、参加者は自由に各スペースを歩き来しながら、ビュッフェ形式の食事を楽しみ交流を深めた。また、ディナー終盤には、ホールにて盛大なダンス・パーティーが開催された。

今回のガラ・ディナーでは、参加者が大ホールに一堂に会して進行されるような形式ではなく、IWA やリスボン側からのスピーチ等も一切行われなかったが、これは IWA がテーマに掲げている「ネットワークの構築」を促すことを目的とし



閉会式での YWP ディスカッション



ガラディナー会場内の様子



開催地の引き継ぎ式



ガラディナー会場内の様子

ているものと思われる。

運営に関しては、ディナー会場行きのバスが市の中心部に位置する3つのホテルからしか出でなかったため、会議会場から直接ディナー会場へ向かうにはタクシーを使用しなくてはならず、参加者への配慮が不十分な面があった。また、参加費に関しても会議登録費には含まれておらずオプション扱いとなっており、割高な印象を受けた。

12. テクニカル・ツアー（技術視察）

テクニカル・ツアーは上下水道関連施設の視察を含む6コースが用意され、世界会議終了翌日の9月26日（金）に行われた。本協会からは、上水道関連の3コースに参加したので、その概要を報告する。

(1) EPAL Asseiceira 浄水場

Asseiceira 浄水場はリスボン市内から自動車です約2時間の Santarém 県 Tomar の Asseiceira にある。EPAL はリスボン市と周辺34自治体の約250万人に対し用水供給事業を展開しており、Asseiceira 浄水場はその主要な配水系統である Castelo do Bodes システムの根幹をなしている。1987年の建設以来、1996年、2007年と2度の拡張工事を行い、現在 EPAL が浄水処理を行う全水量の75%を受け持っている。場内系統はバックアップのため2つに分かれており、それぞれ同様の方式で浄水処理を行っている。原水の水質に応じて処理方式を使い分けており、通常の場合は急速汙過方式での処理、原水の濁度が上昇した時や藻類が増殖した時などは沈澱地と汙過池の間でオゾン

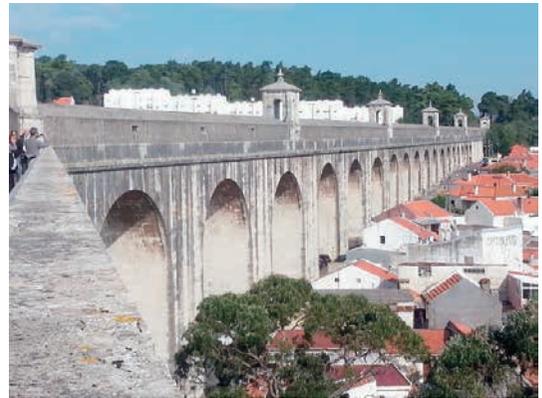
による処理を行い、安全で低廉な水の供給を行っている。

以下、Asseiceira 浄水場の施設概要を記す。

- 名 称 Asseiceira Water Treatment Plant
- 所 在 地 Asseiceira Tomar, Distrito de Santarém
- 処理能力 625,000m³/日（計画値）
- 水 源 Castelo do Bode Reservoir (river Zêzere)
- 処理方式 急速汙過方式（場合によりオゾンによる処理を実施）

(2) EPAL 水ミュージアム

1990年に欧州会議の博物館賞を受賞している水道博物館（最大高さ65mの水道橋、2配水所、蒸気機関のポンプを活用した増圧ポンプ所など歴史的な水道施設で構成）を視察した。水道橋や暗渠



Aguas Livres 水道橋



浄水場内の様子



中央管理室



駆動用シリンダー
(Barbadinhos 蒸気ポンプ場)

- 農業及び農産工業の最適モデルの構築
- 雇用の創出
- 天然資源のマネジメントによる地域の持続可能な発展の実現
- 地域の構造的発展

視察では、リスボン市街からバスで2時間30分ほどかけてダムを訪れ、事務所でプロジェクトの説明を受けた後、ボートに乗ってダム湖を視察した。ダムを単に水源として利用するだけでなく、将来における持続的な産業及び地域のあり方等も含めた複合的な計画が策定されており、ある意味、世界の縮図を見ているようであった。ダム湖をクルーズ中に急な雨が降る場面もあり、広大な水源地を実感することができた。

の徒歩での視察、配水所や増圧ポンプ所の見学とガイドによる説明を通して、市の歴史的発展や人口増加に伴うリスボン水道の変遷を理解できた。

(3) Alqueva ダム

ポルトガル中南部に位置するアレンテージョ地方に位置する Alqueva ダムを視察した。

Alqueva ダムはポルトガル南部アレンテージョ地域に位置するヨーロッパ最大のダム湖で、Alqueva 多用途プロジェクト (EFMA) の水源として、主に灌漑用水として活用されている。

ダムの概要及び EFMA の主な目的は、下記のとおりである。

<ダムの概要>

- 構造 コンクリート製アーチダム
- 最大高さ 96m
- 堤体長さ 458m
- 最大貯水量 4,150hm³
- 貯水面積 250km²
- 放流量 9,800m³/s
- 水力発電容量 260MW × 2 = 560MW

<プロジェクトの目的>

- Guadiana 川の流量制御
- アレンテージョ地域における計画的な貯水
- 水力発電



Alqueva ダム



ダム湖周辺の様子

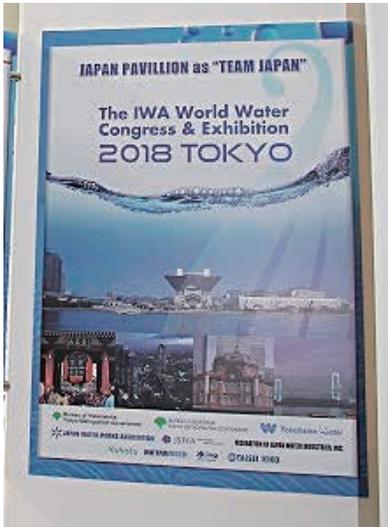
13. 2018 (平成30) 年 IWA 世界会議に向けての活動

今回の世界会議参加にあたり、国際課職員は、本協会主催の会議参加ツアーやジャパン・パビリオンの運営に係る業務のほか、2018年の世界会議東京開催に向けての広報及び会議運営状況の視察等も積極的に行った。

また、2018年会議開催のための IWA と日本側との予備基本協定への署名式がジャパン・パビリオンで開催された。

(1) 2018年に向けた広報

ジャパン・パビリオンに IWA2018パネル (下



IWA 2018 PR パネル

写真) を掲示するとともにチラシを置き、訪問者への積極的な PR に努めた。また、パビリオンの PR コーナーの空き時間には、設置されたディスプレイに IWA2018の PR 画面を表示した。

その他、本協会職員が出席したスペシャリスト・グループ会議等で、チラシを配布するなどの広報活動を行った。

なお、前述したが2016年に世界会議を開催するオーストラリア (開催地はブリスベン) のブースでは、世界会議開催に関し特段の PR は行われていなかった。

(2) 予備基本協定への署名式

9月22日 (月) の15時より、ジャパン・パビリオンの PR コーナーを会場として、2018年 IWA 世界会議開催に際しての基本事項を示した予備基本協定への署名式を開催した。

IWA からは専務理事の Ger Bergkamp 氏が出席、日本側はリスボン会議に出席している開催団体代表者ということで本協会の尾崎理事長がそれぞれ署名を行った。

14. 海外水道協会等とのネットワーキング

IWA 世界会議への参加は、IWA 理事国をはじめ各国の水道分野関係者とのネットワーキングを図る好機である。今回は、本協会との交流促進を望む団体等があり、また、2018年 IWA 世界会議東京開催に向けたロビー活動の側面を考慮し、ジャパン・パビリオンにて、尾崎理事長らとの面談機会を設けた。

面談を行った団体等は下表のとおりである。



署名式の様子

海外水道協会等とのネットワーキング

団体名	面談者	面談内容
フィリピン水道協会 (PWWA)	Edgar C. Lopez	JWWA 全国会議
アフリカ水道協会	Mbaruku Vyakweli Raphael Nzomo, MBS	2016年2月22日～26日第18回国際アフリカ水道会議の案内
〃	Silver Muglaha	
Water net	Kees van der Lugt	2015年11月2日～6日 アムステルダム国際水週間の案内
Watershare	Gertjan Zwolsman Idsart Dijkstra	Watershare の紹介案内
IWA	Ganesh Pangare	JWWA 全国会議

また、面談を通じて、以下のような情報を得た。

- アフリカ水道協会にはアフリカ大陸の51カ国が参加し、国際水道・衛生会議を開催している。直面する喫緊の課題の一つに NRW (無収水) の改善が挙げられ、日本の水道事業体の NRW 低減に関する取り組み実績等に強い関心が表明され、会議への参加案内があった。
- 東京とアムステルダムは友好都市であり、水分野の友好促進を図る上で2015 (平成27) 年11月上旬に開催されるアムステルダム国際水週間への参加意向の打診があった。
- Watershare は、2012年 IWA 世界会議釜山開催時に、オランダ KWR が100%出資で設立した組織で、水分野の諸課題に対応するため、加盟団体が有する知見・ノウハウを共有し問題解決の一助とすることを目的とする「ナレッジシェア」を目指す組織である。現在8団体が会員として加盟しており、23種類の問題解決のソフトウェアツールを保有している。会員には、プラチナ、ゴールド、シルバーの3区分がある。2014 (平成26) 年11月にベルリンで執行部会議を開催し、今後のガバナンスについて議論する。本協会のほか、JWRC 理事長、京都

大学伊藤教授とも接触し、会員加盟について案内している。

15. おわりに

国際課職員が過去に参加した IWA 世界会議の雰囲気や運営状況と比較すると、今回のリスボン会議は会場もさほど大きくはなく、会場の装飾や昼食の内容等、全体的に非常に地味で、可能な限り費用を抑えて開催しているという印象を受けた。しかし、会議登録費やガラ・ディナー参加費等の料金設定は決して低くはなく、参加者からは若干不満の声も聞かれた。特に、会議会場からディナー会場行きのバスが出ないことに関しては、困惑している参加者が多かった。一方、必要最小限のスペースでコンパクトに会議を開催していることや、歴史的な建造物をディナー会場として利用し、独特の雰囲気で盛り上げていたことなど、見習うべき点もいくつか見られた。

以上のことから、過去の IWA 世界会議と比較した場合、今回のリスボン会議が平均的な IWA 世界会議であるとは言い難いと思われる。リスボン会議の良かった点、悪かった点を整理するとともに、東京開催の前の回にあたる2016 (平成28) 年のブリスベン会議についても、特に運営面に関してしっかりと視察、調査し、2018年世界会議など今後の会議準備に生かしていきたい。